令和６年度　学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立穴水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1　生徒自身が自己の目標を見据え、課題に対して主体的・継続的に取り組む姿勢を養う。	①進路選択に係る講話や体験活動等をとおして、キャリア意識の向上を促す。	［進路指導課］ ［各教科］	自らの進路について考え、実現に向けて主体的に努力しようとする意識や向上心が不足している。模擬試験や検定試験・資格試験はもとより、進路選択に係る講話や体験活動において主体的な進路選択を促すとともに、その実現に向けた支援計画を作成する必要がある。	【成果指標】 生徒各自が目標を達成できた。 アドバンスクラス 　模試偏差値 ベーシッククラス 　漢字検定 キャリアコース 　商業検定	模試における英数国合計の偏差値が 55 以上の生徒が受験者の 　Ａ 50%以上　Ｂ 40%以上 　Ｃ 30%以上　Ｄ 30%未満 漢字検定準二級保持者の割合が 　Ａ 50%以上　Ｂ 40%以上 　Ｃ 30%以上　Ｄ 30%未満 商業各種検定合格率が 　Ａ 75%以上 Ｂ 65%以上 　Ｃ 55%以上 Ｄ 55%未満	Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する。	模試・検定試験等の計画の周知、補習、検定合格者の校内掲示、卒業生による進路講話において意欲喚起する。
	②習熟度（類型）別の授業・補習や学習課題等をとおして、自らの学ぶ意欲を高める。	［教務課］ ［各学年］ ［各教科］	家庭学習の習慣が定着していない。各教科から出される課題とＩＣＴ機器を活用した学習アプリを併用し、連動した個別最適な課題を設定して、各自必要な知識を主体的に学ぼうとする学習意欲の喚起が必要である。	【成果指標】 各クラスの１日の学習平均時間（各定期考査までの期間）が アドバンスクラス 　２時間以上 ベーシッククラス 　１時間３０分以上 キャリアコース 　１時間３０分以上	各クラス（コース）において基準を達成した生徒の割合が 　Ａ　７０％以上 　Ｂ　６０％以上 　Ｃ　５０％以上 　Ｄ　５０％未満	Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する	学習時間調査
	③教育ＩＣＴ環境を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実をとおして、確かな学力を養成する。	［ＩＣＴ関連ＧＩＧＡスタッフ］ ［各教科］	ＩＣＴ機器の導入が進み、授業で効果的な活用ができている。一方で一人一台端末を効果的に活用する点において習熟度に差が見られており、若プロや互見授業を通じて全体の習熟度を引き上げる必要がある。	【努力指標】 ＩＣＴ研修や互見授業を通じて「ＧＩＧＡスクール構想」に適った、一人一台端末を用いた授業づくりに取り組んだ。	一人一台端末を用いた互見授業に参加し、「ＧＩＧＡスクール構想」に適った授業づくりに積極的に取り組んだ教員の割合が 　Ａ　８０％以上 　Ｂ　７０％以上 　Ｃ　６０％以上 　Ｄ　６０％未満	Ｃ、Ｄの場合は校内研修を実施する等改善策を検討する。	年２回職員にアンケートを実施

石川県立穴水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 規範意識と協調性を高め、自他を思いやる心を醸成する。	①学校内外の日常生活の場面で、ＴＰＯを前提とした判断と挨拶や言動ができるよう支援する。	［生徒指導課］	身だしなみや挨拶等に関しては、地域の方々より一定の評価は得ている。地域の一員であることを自覚するとともに、生徒自らが自発的に判断・行動ができることが求められている。	【満足度指数】 規範意識をもって、自発的に行動ができたと考えている。	自分から主体的にＴＰＯに応じた挨拶や言動ができているか Ａ　とても出来ている Ｂ　出来ている Ｃ　あまり出来ていない Ｄ　出来ていない	Ａ＋Ｂが 70％未満の場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート
	②学校行事や課外活動をとおして、多様性を尊重しながら協働できる姿勢を養成する。	［生徒会］	ほとんどの生徒が穴水中学校出身であるが、他中学校出身者も含め、さらに良好な人間関係を築くとともに、生徒相互に多様性を尊重し、協働する意識の涵養が必要である。	【満足度指標】 学校行事や様々な校外活動により、良好な人間関係を築き、何事にも主体的かつ積極的に取り組むことができる。	様々な活動を通して、他者と良好な関係を築き、協働することができているか。 Ａ　とても出来ている Ｂ　出来ている Ｃ　あまり出来ていない Ｄ　出来ていない	Ａ＋Ｂが 70％未満の場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート

石川県立穴水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 地域との交流・連携を密にし、地域を理解し貢献しようとする姿勢を養う。	①地域資源(自然・人材・団体・企業)や他校種と連携し、地域理解を深め、探究する力を養成する。	[総探コーディネーター] [各学年]	講演会や現地調査等により地域の自然・産業・文化について理解する機会を多く設けている。探究の時間をとおして、地域の課題解決に向けて主体的に取り組み、より地域理解を深めることが必要である。	【満足度指標】 生徒が地域のために課題意識を持って、積極的に関わり、地域への理解を深めている。	地域の課題解決に向けて、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることができているか。 A　よくできている B　できている C　あまりできていない D　できていない	A＋Bが 70%未満の場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート
	②地域ボランティア等へ積極的に参加し、地域貢献意識を高め、課題解決力を養成する。	[生徒指導課] [生徒会]	地域のボランティア活動や地域のイベント等に多くの生徒が参加している。全校生徒が、地域の未来に目を向け、地域活性化のためにも地域貢献への意識を向上させていくことが必要である。	【満足度指標】 地域のボランティアやイベント等に参加した生徒が自己有用感を持ち、地域に貢献することができたと考えている。	地域のボランティアやイベントに参加し、地域に貢献できているか。 A　よくできている B　できている C　あまりできていない D　できていない	A＋Bが 70%未満の場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート
	③ホームページ等で、教育活動や生徒の様子を積極的に情報発信する。	[総務課]	ホームページへのアクセス数が年々増加している。閲覧者の視点で内容を工夫してホームページの充実を図るとともに、メール配信等、これまで以上に積極的な発信に努める。	【満足度指標】 ホームページや学校だより等をとおして、適切に学校情報や教育活動の様子がタイムリーに発信されている。	学校情報や教育活動の様子を知ることができる情報発信が、適切になされていると感じている保護者の割合が A　９０%以上 B　８０%以上 C　７０%以上 D　７０%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	保護者へのアンケート(年2回の学級懇談会時)

石川県立穴水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4 学校の教育力向上のため、組織力を高め、教師力の充実を図る。	①授業改善と資質向上に主体的に取り組むとともに、組織的思考力や組織的行動力を高める。	［教務課］	組織の若返りが進み、授業の質の継続が課題となっている。若手教員とベテラン教員が相互に得意分野や困っていることを共有し、課題意識をもって授業の質向上に努める機会を設けることが必要である。	【努力指標】 年３回の互見授業ウィークを設定し、それぞれ２回以上参観することとし、本校の授業の質向上を図る。	互見授業ウィーク中２回以上参加した職員の延べ割合が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	Dの場合は改善策を検討する。	互見授業評価票の提出数から算出
		［若手教員早期育成プログラムコーディネーター］	校内研修の予定は決まっているが、昨年度は地震により３学期相当の研修が行えなかった状況を鑑み、前倒しして夏休みなどを活用することで、研修が終えられるように工夫する。	【成果指標】 年間研修計画に即して、研修を実施する。各期の若手が確実に力をつけるとともに若手教員が講師を行う場面を設定する。	校内研修の実施回数(互見授業・研究授業・講師役も含む)が A　２５回以上 B　２０回以上 C　１５回以上 D　１５回未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	若手教員によるアンケートを実施する。
	②業務改善の意識を持ち、効率的・効果的に業務を実践する。	［教頭］	時間外勤務時数は減少したが、職員間の業務分担が特定の人に過重になる傾向にある状況を鑑み、組織として連携した効率的・効果的な業務の実践を図る。	【成果指標】 各種業務の精選や重点化等を意識し、組織として効率よく効果的に業務に取り組んでいる。	職員ストレスチェック集団分析において、「仕事の量的負担・仕事のコントロール」項目と、「職場支援」項目におけるストレスリスクが県内平均に対して A　両項目とも下回る B　片方が下回る C　両方とも高い D　全国平均をこえ、高リスクである	C、Dの場合は改善策を検討する。	ストレスチェック集団分析
	③危機管理意識を高め、緊急時にも適切に対処できる学校組織を構築する。	［教頭］	災害や事故、感染症対策やいじめの把握や未然防止等、安心・安全を脅かす事態に対し、迅速で適切な組織的対応が求められている。	【努力指標】 想定される危機や生徒問題に備えた対応や対策ができるよう、効果的な校内研修が行われている。	研修会により、具体的な危機や生徒問題への対応の仕方が把握できたと考える教員の割合が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	教員へのアンケート